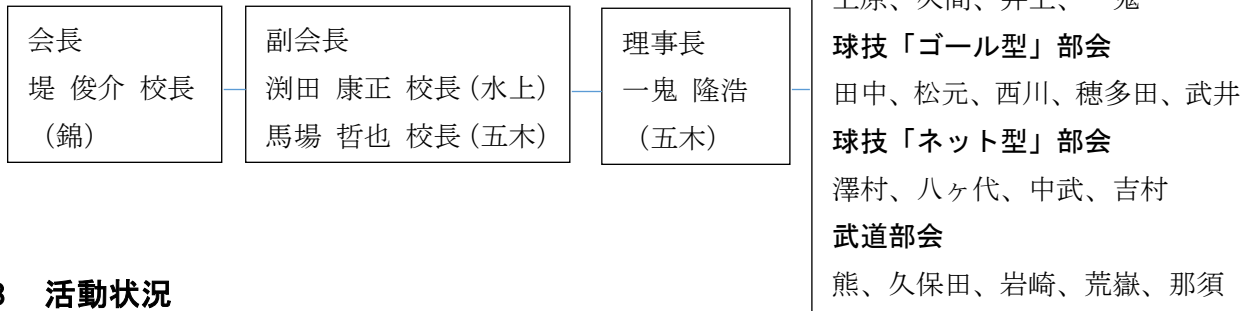


### 1 はじめに

今年度の人吉球磨郡市は、堤俊介会長（錦中学校）を中心に12校18名の保健体育科担当で研究を進めてきた。本研究会では、次期学習指導要領への滑らかな移行や、そこから抽出して定めたテーマ「主体的で対話的な学習展開の工夫」に沿った研究を進めてきた。

### 2 研究組織

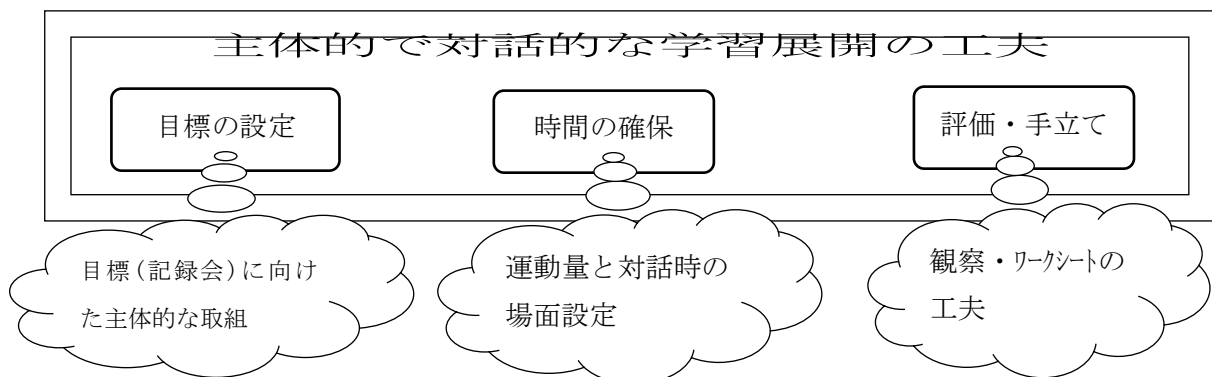


### 3 活動状況

	会議	期日	内容
1	第1回人吉球磨体育研究会 (中学部会)	6月7日 (木)	研究組織・研究テーマ 本年度の研究内容協議
2	第2回人吉球磨体育研究会 (小中合同)	11月26日(月)	公開授業及び授業研究会 授業者：簗田英樹(人吉東小)
3	第3回人吉球磨体育研究会 (中学部会)	1月22日 (火)	夏期研修会復講 実践報告・研究のまとめ

### 4 研究テーマ

<人吉球磨体育研究会(中学部会)研究テーマ>  
 自ら運動の喜びや楽しさを求め、  
 生涯にわたり健やかな心と体をはぐくむ体育学習の在り方  
 ~主体的で対話的な学習展開の工夫~



## 5 研究の概要

### (1) 4領域のグルーピングからの考察・実践

第1回の研修会で、本会のテーマを決定した後、研究員の人数を考慮して、抽出した4領域（陸上競技、球技「ゴール型」、球技「ネット型」、武道）に絞り、グルーピングした部会を設置した。さらに各グループで話し合い、その領域の単元を1つ選択し、年間を通じて教材研究を行うとともに指導案を作成し、互いの授業を参観して今後の素業界前に活かすことにした。

### (2) 小体研との授業研究会（人吉市立人吉東小学校）

☆6年生による器械運動領域の公開授業

#### 中体研のテーマに準じた指導内容

- 1 学習内容の明確化 = (主体的な取組)
  - 3つの技のポイントを提示し、解決に向けた取組
- 2 学習過程の工夫 = (対話的な場面設定)
  - グループで作成した内容を、発表会「マッツイリュージョン」で披露

学習内容の明確化により、学習意欲の向上が図られ、3つの視点「着手」「姿勢」「着地」を確認するため、タブレットなどのICT機器を用いた活発な班別練習（活動）が展開されていた。また、児童が考えたアドバイスを提示し、練習を行う際に意識すべき事項を確認させることにより、深い学びの場面を設定した展開があった。また、終末の「今日のヒーロー、ヒロイン」の発表では、対話的な場面を経ないとできない評価であったが、教師側の指示がなくても、児童が主体的に発表できる流れになっていた。

全体協議において、中学校からは、練習の場の工夫により思考の揺さぶりが確認できていたことや、技能の習得ができやすい授業展開だったなどの声が聞かれた。

### (3) 夏期研修内容復講 復講者：穂多田 教諭（山江中）、松元 講師（人吉一中）

夏季研修会では、パラリンピックに関連し、「車いすバスケットボール」を行ったが、道具の準備が難しかったので、実技種目は「シッティングバレー」に変更して復講を行い、その後は部会毎に分かれ、テーマに沿った展開案の考察を行った。

また、実技を行う前に、概要説明を行い、各学校に配布されている国際パラリンピック委員会公認教材の「I'mPOSSIBLE」を活用し、DVDの鑑賞及びシッティングバレーについてのルールを確認することで、より理解を深めることができた。

## 6 まとめ

新学習指導要領完全実施に向けた取組が行われており、研究協議会や県中体研の発表などを参考に、各校で確立しつつある。本研修会においては、3回とも半日の短い時間ではあったが、各校の実践を共有し、さらに考察することによって、学習指導案の検討を行うこと作成などができ、大変有意義であった。次年度は、「学校体育研究推進校」に指定されているあさぎり中学校の発表とも連携して研究に取り組むとともに、小体研と連携した終日の研修会を計画したいと考えている。